

国際農林水産業研究センター(JIRCAS)



沿革：昭和45年6月 農林省熱帯農業研究センター → 昭和53年7月 農林水産省熱帯農業研究センター
→ 平成5年10月 農林水産省国際農林水産業研究センター → 平成13年4月 独立行政法人国際農林水産業研究センター

我が国の重要な政策課題

- ①世界の食料需給の将来にわたる安定に資するため、開発途上地域における国際協力を推進する(「食料・農業・農村基本法」)
- ②世界に向けた具体的な国際協力プロジェクトの提案・実施や日本人研究者の国際的ネットワークの拡大(「科学技術基本計画」)

その実現に向けてJIRCASが取り組んでいること



「熱帯・亜熱帯の開発途上地域における農林水産業の発展のための国際共同研究」

- ①開発途上地域の農林水産業の動向を解析し、世界の食料需給の安定化に資する情報・研究戦略の提供
- ②開発途上地域の厳しい栽培環境下での安定的生産技術を開発し、農林水産業の持続的発展に貢献

増大する社会的ニーズ

- ・国連ミレニアム開発目標(MDGs)の採択(世界の貧困と飢餓の削減)
- ・G8サミット等での国際農業研究協議グループ(CGIAR)の重要性の指摘と技術開発へ向けて国際協力の期待
- ・政府開発援助(ODA)大綱の改訂と新たな国際協力の要請
- ・「国際農業研究推進方針」(農林水産技術会議)の策定



理事長のトップマネジメントによる機動的な運営により、国際的ニーズに的確に対応

- ・日本政府のアフリカ支援強化の方針に対応し、アフリカでの活動の強化等重点地域の拡大
- ・CGIARの世界で最初の重点研究拠点(Focal Point)として、国際研究機関との共同研究を推進
- ・「持続的開発のための農林水産国際研究 フォーラム」を立ち上げ、国際研究のためのナショナルセンター機能を強化



ベトナムにおけるオニテナガエビ稚エビの培養技術の確立
(ベトナムでの稚エビ生産量が2002年に1990年の50倍(5万尾)に増大)
[平成14年度文部科学大臣賞]

具体的成果

今後の途上国人口増加28億人(2050年)の食料問題の解決が急務

資源に恵まれない途上国の有用資源開発で国力の向上

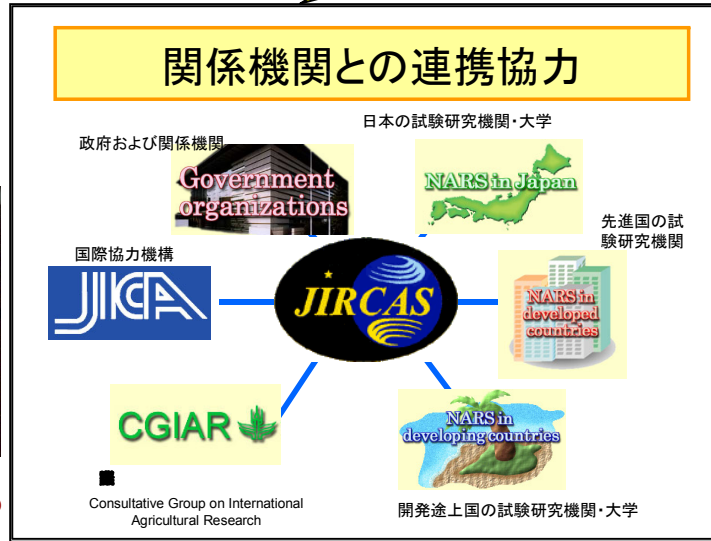
[ベトナム農業省のゴールデンライス賞]

途上国の自給率の向上



アフリカのネリカ米の振興のための開発研究

国連ミレニアム宣言で2015年までに8億人の飢餓人口を半減



アブラヤシ廃棄物から高純度セルロースの抽出

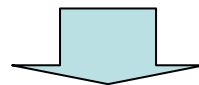
熱帯・亜熱帯の豊富なバイオマス資源の有効利用技術の開発



これらの成果の蓄積により、「途上国での農林水産業の持続的発展」、「世界の食料需給の安定化」を目指す。

これらの成果は、海外長期・短期派遣、長期招へい、などJIRCAS独自の制度の弾力的運営によって実現

我が国の国際貢献に対するアイデンティティの明示が不明確になる



国益に関わる迅速な国際的対応、海外における緊急時の機動的対応が不可能

現在の組織体制を維持することが望ましい